

例会記事

六月例会 平成元年六月十七日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

緒方富雄先生追悼例会(蘭学資料研究会と合同で行われた)

一 蘭学研究史上における緒方富雄先生の功績 杉本 勲

二 血清学者としての緒方富雄先生

— 免疫概念の歴史的な捉えに¹⁾く²⁾ (clarivance)

について—

川喜田愛郎

七月例会 平成元年七月十五日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 フランス革命と医学

大村 敏郎

二 人工授精の論証と親子論についての私見

宮田十寸穂

九月例会 平成元年九月十六日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 エディンバラ王立救貧院病院とアグネス・ベッチ

平尾真智子

二 三條天皇ノ御病状ニ就イテ

稲垣 直

例会抄録

江戸幕府における鍼科と盲人

香取 俊光

鍼は江戸時代の重要な医療手段であり、盲人はこの時代の鍼の

発展に大きく関わっていた。しかし、現在までの鍼と盲人の研究は、そのほとんどが杉山檢校和一についてで終わっている。本稿は、この時代の鍼と盲人を明らかにする一段階として、江戸幕府における盲人が幕府にいかに関わっていたか検討する。

史料は、江戸幕府の正史『徳川実紀』・『続徳川実紀』、家臣の系図集『寛政重修諸家譜』、職員録『武鑑』を中心に、盲人関係の史料『久我家文書』・『当道大記録』などを使用した。その中から、幕府において鍼の施術をした者を網羅的に集めた。

まず江戸幕府の医療制度という点と、とくに呼び名がない。幕府のお抱えの医師は、『徳川実紀』などに頻繁にでてくる「医員」が総称と考えられ、奥医師・寄合医師・小普請医師などの身分を越えて呼ばれている。幕府内には、内科(本道)・外科・鍼科・小児科・眼科・口中科・産婦人科の医療七科目が置かれていた。制度は画一的に整備されたものではなく、必要に迫られてしだいに形作られたものである。また、この時代の医師は、試験制度で認められた者ではなく、病気を治せる実力・能力のある者が医師として認められた。医師は、(一)自家が代々医師であった、(二)著名な医家に学んだ、(三)自らの経験で病気を治せるようになった等の契機で医師となった。幕府も、身分や地域にかかわらず実用的な医師を医員に登用している。この事は、盲人であっても実用に適えば医員となりえた事を示す。たとえば、杉島檢校不一は、「鍼治を善くする」により桜田の館で家宣に仕えていた。鳥崎檢校登栄とらも、「針治を善くする」により西城奥医に準ぜられた。芦原檢校英俊一は、松代侯に仕え、尾張・紀伊・徳川儀同・松平兵部や